

文化財の分類

文化財の種類	重要なもの	特に価値の高いもの	備考
有形文化財	重要文化財	国宝	建造物、美術工芸品（絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・古文書・考古資料・歴史的資料）など
	登録有形文化財		保存と活用が特に必要なものを登録
無形文化財	重要無形文化財		演劇・音楽・工芸技術など。個人が持つ技能・技術が指定された場合は「人間国宝」と俗称
	重要無形民俗文化財		衣食住・生業・信仰・年中行事などに関する風俗慣習・民俗芸能・風俗技術など
	重要有形民俗文化財		無形民俗文化財に用いられる衣服・器具・家具など
民俗文化財	登録有形民俗文化財		保存と活用が特に必要なものを登録
	史跡	特別史跡	貝塚・古墳・都城跡・旧宅など
	名勝	特別名勝	庭園・橋梁・峡谷・海浜・山岳など
記念物	天然記念物	特別天然記念物	動物・植物・地質鉱物など
	登録記念物		保存と活用が特に必要なものを登録
文化的景観	重要文化的景観		棚田・里山・用水路など地域の人々の生活・生業や風土により形成された景観地
伝統的建造物群	伝統的建造物群保存地区	重要伝統的建造物群保存地区	宿場町・城下町・農漁村など周囲の環境と一体となって歴史的風致を形成している伝統的な建造物群
文化財の保存技術	選定保存技術		文化財の保存に必要な材料や製作・修理・修復の技術など

文化財は町の大切な宝物。現在、能登町には国指定8件、県指定16件、町指定366件の指定文化財があります。この4月には「五十里ののとキリシマツツジ」と「鶴川のイドリ祭り」の2件が同時に県指定文化財に指定されました。

今月は、町の文化財（国、県指定）を紹介するとともに、能登町の文化財の特徴やその重要度を考えてみたいと思います。

「五十里ののとキリシマツツジ」「鶴川のイドリ祭り」が  
県指定文化財へ



目次 平成20年5月号

特集 文化財見聞録	2
住宅用火災警報器	12
叙勲・表彰	14
公民館通信 ~高倉公民館~	15
人の間に Vol.23 ウエイトリフティング・西中竜馬	16
まちの出来事 宇出津曳山祭り／鬼討ち祭り／ ごいた商標登録／スポ少結団式 など	18
くらしの掲示板 お知らせ／募集／催し／相談 など	20
能登町ホームページでバナー広告募集	23
スポーツ案内・結果 橋本・中田ペア（鶴川ソフトテニス） が全国大会準優勝	24
図書館・児童館案内 遊々能登～奥能登イベント情報～	25
安心安全まちづくり／国民年金のはなし ／後期高齢者医療保険料率の改定	26
健康インフォメーション	28
有線テレビ番組案内	30
こせきのみど／寄付／人口動態	31

# 文化財見聞録

特集

Photo：五十里ののとキリシマツツジ



◀今月の表紙

藤波・神目神社の春祭り「酒樽がえし」が4月2日に行われました。下帯姿の男衆10人が、田んぼや海で酒樽を奪い合う姿をカメラに収めようと、たくさんのカメラマンも訪れていました。

県文化財保護審議会は3月28日、5件を県文化財に指定するよう答申しました。その中の2件が能登町の「五十里のとキリシマツツジ」と「鶺鴒のイドリ祭り」です。

「今」年も何とか咲いてくれた。新しく県指定天然記念物に指定された「五十里のとキリシマツツジ」を所有する酒井一以さんは毎年、紫色の花が咲くところを思うという。

## 紫色では県内最大

燃えるような赤色が特徴のとキリシマツツジの中で、異彩を放つ紫色のキリシマツツジ。樹高約1.3m、枝張り約2.4mは紫色の花を咲かせるものは石川県内最大であり、樹齢約250年は最も古いとされる。

「調査に来た大学の先生からは、『これだけ大きいものは日本にも数少ない』と言われた」という酒井さん。古木などの天然記念物が比較的多い神社仏閣ではなく、個人宅の庭先になぜこれほどのキリシマツツジがあるのだろうか。



酒井一以さん

さかい・いちい（五十里）  
性質的に樹盛が弱いキリシマを愛情込めて管理する。77歳。

自分が死ぬまで枯れずに咲いてほしい。

「この場所は朝日が十分に当たり、水気が多くて水はけが良い。キリシマにとってはすごくいい環境と良く言われる」と話す酒井さんの庭は、水田よりも1.5mほど高くなっている。すぐ側に池もある。また、道路沿いからも一目りよう然なので毎年たくさんの方が紫色のキリシマを見に訪れるという。

められた紫色のキリシマツツジは、もうすぐ見ごろを迎える。

## 学術的に証明された価値

「学術的調査でこのキリシマツツジの価値が認められた」と話すのとキリシマツツジ連絡協議会会長の宮本康一さん（72）は数年前から県の文化財保護審議委員にこのキリシマの価値を訴えてきた。

「大学の先生による学術調査やDNA鑑定を得て、このキリシマがすばらしいものであることが証明された」という。

宮本さんによると、紫色のキリシマツツジは九州地方でも高い場所にしか咲かない花で、本州でも能登が南端だろうということだ。つまり、元々高い場所ですぐキリシマが低地にあるため成長が遅く、枯れやすいのではないかと推測されるという。またDNA鑑定の結果、能登各地の紫色のキリシマの古木と遺伝的に同じで酒井家のキリシマから株分けされた可能性がある

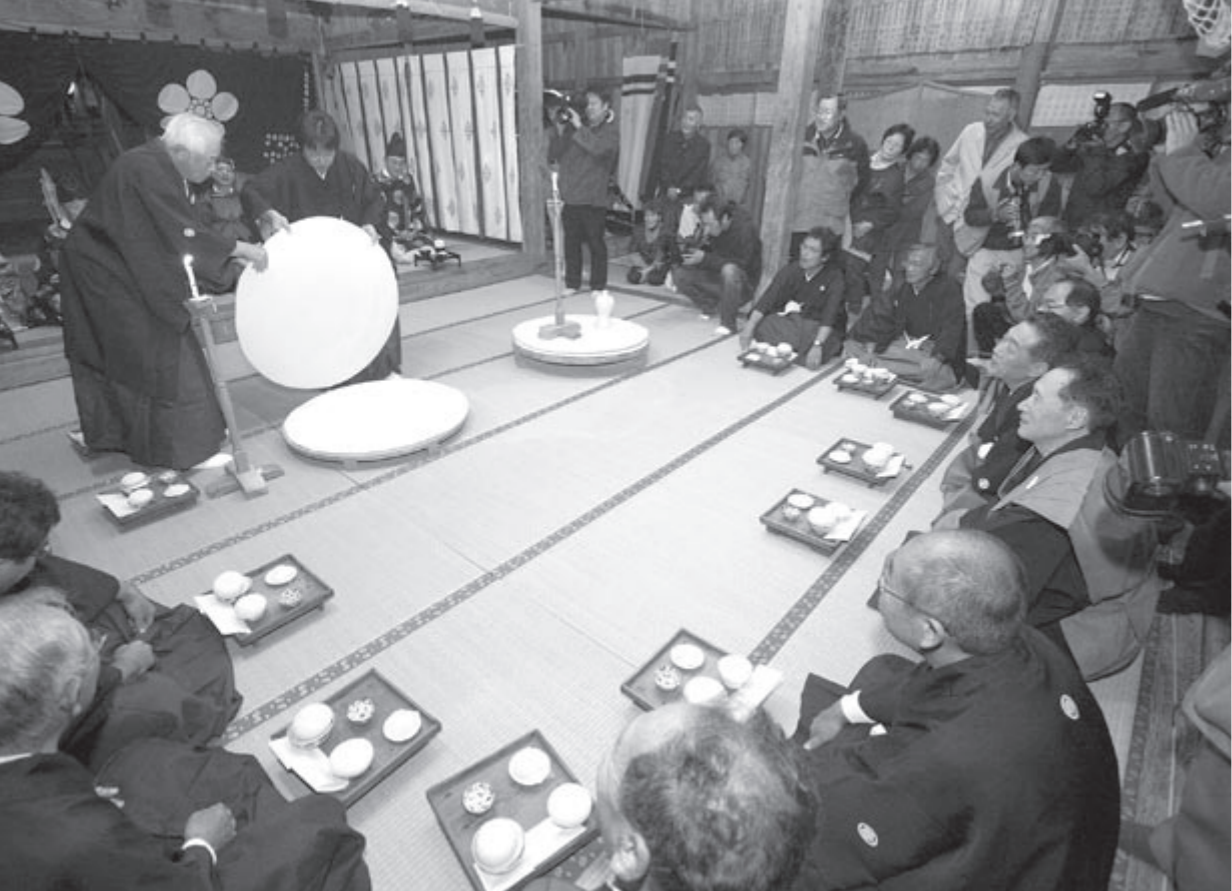


県指定天然記念物に指定された

## 五十里の のとキリシマツツジ

## 鶺鴒の イドリ祭り

県指定無形民俗文化財に指定された



イドリ祭りは500年以上続いてきた祭り。今回の指定が祭りに参加する皆さんの励みになってくれれば」と話す菅原神社宮司で保存会会長の梅田真人さん。先代の宮司である父親が亡くなった26歳の時から15年間、イドリ祭りの主宰を任されている。「最初のころは右も左も分からない状態。皆さんにいろいろと教えてもらい、励ましてもらいながら覚えていった」と当時を振り返る。

## 供えた大鏡餅を非難する

イドリ祭りは八講祭とも呼ばれ、11月1日から8日までの8日間行われる収穫感謝祭。鶺鴒・七見・小垣・谷屋・竹原（穴水町）・太田川（穴水町）の近隣6つの地区のうち毎年2つの地区が当番制で祭りを行う。7日の大祭の日には当番の地区が作った小餅と直径1.2mの大鏡餅のイドリ（非難するの意）と弁慶を繰り返す。

餅は翌年の当番が持ち帰ることになっているが「薄い、形が悪い」などといって、なかなか受け取ろうとしない。そこで主宰である梅田さんと主賓である

伝兵衛（広田敏次郎さん）が仲介することになる。「昔はエスカレーターしてケン力になったこともあるといわれている。それほど各地区は祭りに対して真剣で一生懸命に餅を作ってくる」と話す梅田さん。毎年いかに仲裁して祭りを収めるか苦労しているという。

## 中世宮座制を今に伝える

宮を中心として近隣の村の名（「名主」）が集まり祭りを行う中世の宮座制を現代に伝えているこのイドリ祭りは、記録保存を講ずべき文化財として文化庁の「選択無形民俗文化財」に選ばれている。全国に数少ない宮座制が残る事例の中でも、イドリ祭りが最も強くその形を残しているともいわれている。梅田さんも「祭りの準備はすべて女人禁制。昔のやり方を守ること」を重視している」と祭りに対するこだわりを見せる。

しかし、それだけに後継者不足は深刻な問題だ。「時代が変わって8日間ずっと祭りをすることが難しくなっているし、10数世帯しかない地区もある。それでも各地区が500年以上この祭りを続けてきたことがすこ

地域の皆さんの頑張りで  
続いてきた祭りをこれからも残していきたい。



梅田 真人さん

うめだ・まさと（鶺鴒）  
鶺鴒イドリ祭り保存会会長で菅原神社の宮司。41歳。

いこと」なのだという。

稲作を表す餅をイドルことよってその1年を笑い飛ばし、翌年への糧とするユーモアと勤勉さ。そして、それぞれの地区で500年という長い年月にわたり受け継がれ、守り続けてきたイドリ祭りの伝統は、この地域が全国に誇れる宝物だ。「祭りには地域の皆さんのもの。皆さんの苦勞や頑張りがあるからこそ、イドリ祭りは続いている」と話す梅田さんは、これからも地域とともに伝統あるイドリ祭りを守っていく。

節分の夜に鬼が家々を回り怠けた心を戒める  
**能登のアマメハギ**

■種別：無形民俗 ■所在地：秋吉・河ヶ谷・清真・宮犬 ■管理者：内浦町アマメハギ保存会 ■国指定年月日：昭和54年2月24日



旧門前町皆月地区の「あまめはぎ」と輪島市に伝わる「面様年頭」と合わせて「能登のアマメハギ」として指定される。立春前夜、節分の夜に鬼の面を付けた子どもたちが「あまめー」「怠け者はおらんか」などと家々を回り、冬の間の怠けた心を戒める。保存会会長の天野登さん（72）＝秋吉＝によると「アマメハギは季節が変わっても怠けていてはダメだと神様が教えてくれる行事」なのだという。

田の神様に収穫を感謝し豊作を祈る民間信仰習俗  
**奥能登のあえのこと**

■種別：無形民俗 ■所在地：奥能登4市町 ■管理者：奥能登あえのこと保存会 ■国指定年月日：昭和51年5月4日



奥能登全域の農家に伝わる田の神祭りであり、「あえ」は饗応、「こと」は祭事や神事を意味している。12月5日に田の神様を家へ迎え入れ、2月9日に再び田へ送る。田の神様が実在するようにもてなす「あえのこと」は、神と一体となって生きた古代人の生活をほうふつさせる行事である。植物公園合鹿庵では、毎年あえのこと神事を執り行い、保存伝承に努めている。

能登の古代仏教、仏教美術の源流に通じる如来像  
**銅造如来及両脇侍像**

■種別：彫刻 ■所在地：布浦才-36 ■所有者：九ノ里薬師寺 ■国指定年月日：昭和60年6月6日



通常の薬師三尊像と異なり、渡来銅仏

の特色を顕著に表現している。「能登名跡志（1797年）」にもこの薬師三尊像の記述があり、江戸時代中期においてすでに著名な尊像であったことが知ることができる。九ノ里薬師寺保存会会長の星野孝一さん（65）＝布浦＝は「薬師様はこの地域の守り本尊。これからも大切に保存していきたい」と話してくれた。

旧国宝。藤原時代の仏像彫刻として堂々の中央作  
**木造不動明王坐像**

■種別：彫刻 ■所在地：柳田ラ-87 ■所有者：法華寺 ■国指定年月日：昭和25年8月29日



仏像彫刻の隆盛を誇った藤原時代の中央作。

護摩堂本尊として収蔵庫に安置されている。大正13年8月16日指定の旧国宝でもある。法華寺住職の廣澤孝俊さん（42）＝柳田＝によると「この不動明王坐像は平家の落人が能登に持ってきたものといわれている。普通の不動明王像とは違い、とても優しい表情をしていることが特徴で、お参りすると心が安らぐ」ということだ。

File **2** **国指定文化財**

**8** つを見聞する。

全国に例を見ない4000年の長期定住縄文遺跡  
**真脇遺跡**

■種別：史跡 ■所在地：真脇48字地内 ■所有者：能登町 ■国指定年月日：平成元年1月9日



縄文時代前期初頭から晩期終末までの4000年間にわたって営まれた長期定住型遺跡は、全国でも例を見ないものである。また低湿地帯であることから動物性、植物性の遺物が大量に発掘されたことも真脇遺跡の特徴の一つ。そのため出土品は多種多量を極め、「縄文文化の宝庫」と呼ばれるようになった。指定された4畝弱のうち、まだほとんどが水田下に保護されている。

日本古来の造船技術を伝える貴重な資料  
**能登内浦のドウブネ**

■種別：有形民俗 ■所在地：宇出津イ-112-4 ■所有者：能登町 ■国指定年月日：平成10年12月16日



江戸時代から昭和30年ころまでの台網（定置網）漁業を支えた木造の船。樹齢200年以上のスギ材を使用し、その内部をくりぬくという丸木ブネの技法を今に伝えている。現存するドウブネは、波並大敷で近年まで網作業などに利用されていたもので、遠島山公園と真脇遺跡公園に保存されている。大きさは約10㍍で、ブリやマグロ、時にはクジラなどもこのドウブネによって捕らえられていた。

大量・多彩な出土品の中から219点が国指定に  
**真脇遺跡出土品**

■種別：考古資料 ■所在地：真脇48-100 ■所有者：能登町 ■国指定年月日：平成3年6月21日



「縄文文化の宝庫」真脇遺跡からの出土品

のうち特にすぐれた219点が国指定を受ける。真脇遺跡は層序が明らかなことが特徴のひとつであり、出土品は全国で初めて、前・中・後・晩期の4期を網羅した指定となった。お魚土器（前期）、鳥さん土器（中期）、土製仮面（後期）、巨大環状木柱列（晩期）など注目を集める出土品が数多く指定されている。

全国的にも数少ない等身大の聖徳太子立像  
**木造聖徳太子立像**

■種別：彫刻 ■所在地：松波3-80 ■所有者：松岡寺 ■国指定年月日：平成5年6月10日



等身大の松寄木造、玉目嵌入、盛上金泥彩色、髪を美豆良に結う立像。その顔は気品に満ち、写実的な線を強調する袈裟の制作と彩色はよく整い、保存状態も良い。松岡寺住職の波佐谷顕充さん（70）＝松波＝は「等身大の聖徳太子立像として、大きさと保存状態は全国1位か2位に数えられる。これからも保存に気をつけて、像をお守りしていきたい」と話してくれた。

## 藤の瀬甌穴群

おうけつぐん

大小約 100 個の甌穴が形成  
県内でも稀な甌穴群



下藤ノ瀬を流れる藤の瀬川「大向橋」から下流約 600 ㍍の河床は、小さな峡谷となっている。水量が常時少なく、水深が浅いため発生する渦巻状の流れと軟質の岩盤によって大小約 100 個の甌穴が形成され、3 カ所の滝とともに自然の営みによる見事な景観となっている。甌穴群は県内でも希少な存在である。

■種別：天然記念物 ■所在地：藤ノ瀬 4-4 地内 ■管理者：石川県 ■県指定年月日：昭和 56 年 7 月 3 日

## 常椿寺のフジ

じょうちんじ

樹齢約 550 年。全国 1 位にも  
ランクされた夫婦フジ



常椿寺の左手にあり、根回り 6.2 ㍍、胸高周囲 4 ㍍、樹高 25 ㍍を測るものもある。昭和 57 年発行の「石川県の巨樹」では全国 1 位にランクされるが、樹勢の衰えが認められ平成 7 年度に樹勢回復・維持の処置がされた。2 本のフジが互いに寄り添うように立ち登ることから「夫婦フジ」とも呼ばれている。

■種別：天然記念物 ■所在地：宇出津ウ-105 ■管理者：常椿寺 ■県指定年月日：昭和 36 年 9 月 29 日

## 松波城跡 庭園跡

まつなみじょうせきていえんあと

京風文化の名残をとどめる  
室町様式の庭園遺構



昭和 37 年の公園整備中に発見され、昭和 55 年に再発掘調査が行われた。平たい小石を縦並びにして一面に敷き詰め、流れに洗われた岩や浅瀬のように所々に大小の石を配置することで、水の流れを見事に再現した枯山水の意匠は非常に珍しいものであり、風雅を愛した松波畠山氏の心情を偲ぶことができる。

■種別：史跡 ■所在地：松波 1-1・2 ■管理者：能登町 ■県指定年月日：平成 3 年 2 月 6 日

## 宇出津崎山 縄文遺跡

宇出津式土器を生み出した  
9,000 m<sup>2</sup>の大遺跡



昭和 12 年に存在が確認された崎山台地の縄文遺跡。昭和 27 年の試掘調査で出土した土器は「宇出津式土器」と命名され、以後北陸の縄文時代中期後葉後半の標識遺跡となる。昭和 46 年の緊急発掘調査では 9,000 m<sup>2</sup>の広がりをもつ大遺跡であることが判明した。遺跡の一部は、緑地公園として保護されている。

■種別：史跡 ■所在地：崎山 4-117 ■管理者：能登町 ■県指定年月日：昭和 48 年 10 月 5 日

## 妙栄寺銅造 阿弥陀如来懸仏

みょうえいじどうぞうあみだによらいかけぼけ

円形銅板の中央に  
像高 9.2 ㍍の阿弥陀如来像



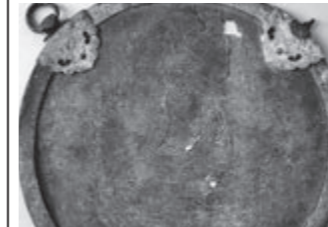
不均一な円形銅板の中央に、像高 9.2 ㍍の鑄銅製阿弥陀如来像をほぞ留めする。像の沈線部や、鏡板の仏像が貼る付けてある部分に鍍金（メッキ）の跡が残っている。日蓮宗妙栄寺にこの懸仏が残っていることに伝承はなく、下方にあった白山社から寄託されたものと推測されている。

■種別：工芸品 ■所在地：波並 3-6-1 ■所有者：妙栄寺 ■県指定年月日：平成元年 12 月 22 日

## 今蔵神社線刻 薬師如来懸仏

いまくらじんじゃせんこくやくしによらいかけぼけ

鎌倉時代初期、  
類例の少ない貴重な遺品



円形の銅板に薬師如来を線刻する懸仏。像は調和のとれた風格を示し、神秘的な雰囲気を出している。鏡像から懸仏への過渡的な要素がみられ、鎌倉時代初期の類例の少ない重要な遺品。今蔵神社の社務所に保管されていたもので、山田郷内の由緒ある神社のご神体であったものと推測される。

■種別：工芸品 ■所在地：瑞穂 3-6-1 ■所有者：今蔵神社 ■県指定年月日：平成元年 12 月 22 日

## 中谷家住宅附 屋敷構え

なかたにけいじゅうたくつきやしきがまえ

江戸時代中期、  
庄屋の格式を示す



江戸時代中期以来、黒川村庄屋であった中谷家の住宅。主屋は木造平屋建ての切妻平入り造りで、前面に田園、後背に裏山を抱え、石垣、庄屋門、塀、離れ、蔵、奉公人棟、庭園と続く屋敷構えは当時の豪農の生活様式を今に残す。蔵の内部は黒漆と朱漆の総輪島塗で江戸後期の建築。

■種別：建造物 ■所在地：黒川 28-180 ■所有者：中谷和夫 ■県指定年月日：昭和 61 年 3 月 22 日

File 3

石川県指定文化財

16 を紹介 (五十里ののちキリシマツツジと)  
鵜飼イドリ祭りには 4:5 ページ

## そのほか 町指定文化財は

366 件

建造物	19
絵画	42
彫刻	52
工芸品	36
書籍	17
典籍	7
古文書	11
考古資料	17
有形民俗	22
無形民俗	18
史跡	28
名勝	5
天然記念物	92

## 大峰神社 社叢モミ林

おおみねじんじしゃそう

能登半島本来の植生を示す  
貴重な自然



大峰神社本殿の社叢は、標高 150 ㍍の山頂から山腹にかけて広がっている。この林は「モミーシキミ群集」に属し、日本海側の植生ではあまり類例を見ない。またブナやタブノキも見られ、ブナの生育地としては低海拔で、タブノキの生育地としては高海拔という極めて特異な植生を示している。

■種別：天然記念物 ■所在地：瑞穂 7-11-1 ■管理者：大峰神社 ■県指定年月日：平成 7 年 10 月 3 日

## 宇出津の漣痕

れんこん

崎山台地が形成されていった  
古環境を実証する地層



2500 万年から 1200 万年前の間に堆積したと考えられる地層。海水の振動や流動によってできる「漣痕」と呼ばれる波形の模様が特徴で、対称型の振動漣痕と非対称の流動漣痕の 2 つの型が見られる。このほかに正断層、逆断層も認められるなど、地学教材としても価値の高い資料となっている。

■種別：天然記念物 ■所在地：宇出津ウ-211-1 ■管理者：国土交通省 ■県指定年月日：平成元年 1 月 9 日

## 不動寺の 埋積珪化木群

まいせきけいかほくぐん

中新世の気候を示す  
貴重な化石



珪化木は植物の化石の一形態で、埋もれた樹木が膨大な長い年月をかけて二酸化ケイ素（シリカ）という物質に変化したもの。不動寺地区一帯からは珪化した樹木が多く出土するが、指定されているものは暖地性の化石であり、当時の日本の気候を知る上でも貴重な存在。珪化木公園の段丘部にある。

■種別：天然記念物 ■所在地：不動寺 4-22 ■管理者：能登町 ■県指定年月日：昭和 62 年 3 月 23 日

## 祭祀遺跡 石仏山

いしぼとけやま

原始神道を今に伝える  
類例の少ない祭祀遺跡



柿生の神道地区にある石仏山は「結界山」などとも呼ばれる。石川県の巨木第 1 位のケンボナシなどが生い茂る祭場には「前立」と呼ばれる巨大な立石があり、この石の前で毎年 3 月 2 日に神事が行われる。社殿がないため神社の列に加えられなかったといわれる石仏山は、原始神道を伝える貴重な祭祀遺跡。

■種別：史跡 ■所在地：柿生 16 ■管理者：神道区長 ■県指定年月日：昭和 42 年 10 月 2 日

## 小木 とも旗祭り

高さ 20 ㍍、9 本のとも旗が  
大漁、安全を祈願する



5 月 2・3 日に行われる小木御舟神社の春祭り。大漁、安全を祈願する 5 つの文字が描かれた幅 2 ㍍、高さ 20 ㍍のとも旗が伝馬船に掲げられ小木港内を周回する。3 日午後には、神輿を乗せた御座船と 9 本のとも旗が 1 列につながれて港内を巡航する。漁師町・港町らしい勇壮な海の祭り。

■種別：無形民俗 ■所在地：小木地内 ■管理者：小木祭礼委員会 ■県指定年月日：平成 18 年 4 月 7 日

## 宇出津の キリコ祭り

伝統を守りながら 40 数本の  
キリコが乱舞する



7 月第 1 金・土曜日に行われる宇出津八坂神社の祭礼。「あばれ祭」ともいう。祭り初日は 40 数本のキリコが大松明の周りを乱舞し、2 日目は 2 基の神輿が大暴れをする勇壮な祭りである。キリコや神輿が暴れるのは八坂神社の主神（牛頭天王＝スサノオノミコト）の神慮にかなうからである。

■種別：無形民俗 ■所在地：宇出津地内 ■管理者：八坂神社奉賛会 ■県指定年月日：平成元年 10 月 23 日

## 真脇遺跡 出土品

イルカの骨を含む 1,412 点  
が県指定に



大量で多彩な出土品が発掘された真脇遺跡。出土品は重要度順に国・県・町でそれぞれ指定されている。その中でも県指定分は 1,412 点、町指定分が 1,593 点となっている。県指定分にはイルカの骨が含まれているが、真脇遺跡からは数百頭のイルカの骨が出土し、世界最古の捕鯨基地でもあった。

■種別：考古資料 ■所在地：真脇 48-100 ■所有者：能登町 ■県指定年月日：平成 2 年 3 月 22 日

# 文化財を語る

文化財の保護、活用のための調査研究を行い、教育委員会に諮問や答申を行う文化財保護審議会の委員3人と田下教育長に集まってもらい、町の文化財の現状や課題などについてお話を伺いました。

**山田** このたび、能登町から2点が県指定になったことは非常に喜ばしいことです。古来から能登の国の中心は羽咋と七尾であり、文化財の件数について見るとこの2つが飛び抜けているのは当たり前ですが、歴史的特徴のない能登町において、国指定が8件、県指定が16件あるということは特に多いといえます。「五十里ののとキリシマツツジ」については、地元委員で



能登町文化財保護審議会会長  
やまだよしかず  
**山田芳和**さん（波並）

あり、動植物に詳しい谷口委員に説明していただきます。  
**谷口** のとキリシマは近年注目され、能登の遺産となつていいます。その中で、酒井家のキリシマは花の色が紅紫色ということとで異色であるといえます。そのルーツを学術的に調査した結果、日本的にも異色な一種に特定していただけるという話になりました。昨年、県の巨樹の会や県の審議会の方が調査に来ら

れた時には、これは指定にふさわしいという評価をいただきました。今回順当に指定され光栄に思っていますし、今後も理解を深めて守っていききたいと強く感じています。  
**山田** キリシマツツジは能登においては江戸時代からステータスシンボルであり、キリシマに対する強い思いがあると思います。それでは鶴川のイドリ祭りについて、河合委員から説明してください。

**河合** イドリ祭りというのは、鶴川の人間にとつてはそれほど祭りの祭りではありませんでした。この祭りは周辺の村々と鶴川の伝兵衛という人だけの祭りだからです。しかし民俗学的にはユニークで歴史ある祭りであることは確かです。中世には名主を中心とした「名」という小さい単位がありました。鶴川近辺の12の名の有力者たちが宮座を結

成して菅原神社に奉仕したので、この宮座制度が残っています。祭は全国にもあまり例がありません。時代が変わり名の役割は各地区ごとに行うようになりましたが、鶴川だけは広田さんが名の中心として続いています。500年以上続いているという歴史的にも古く、全国にもあまり残っていないものが鶴川に残っているということは非常に価値があると思います。

## 文化財保護の課題

市町名	国指定	県指定	市町指定	合計
羽咋市	26	23	62	111
七尾市	23	23	232	278
輪島市	31	38	246	315
珠洲市	8	15	80	103
宝達志水町	2	6	66	74
中能登町	3	7	95	105
志賀町	2	17	118	137
穴水町	1	6	62	69
能登町	8	16	336	360



能登町文化財保護審議会職務代理  
たにぐちまさしげ  
**谷口正成**さん（当目）

未開拓の文化財はまだたくさんある。

が今の状態でどれだけ寿命を保つていけるかという問題があります。フジには巻き付く相手が必要ですが、巻き付いているタブの木自体もかなり老衰しているようです。タブの木を含めて保護を考えていく必要があると思つています。それと不動寺の珪化木です。もともと地中にあった珪化木を空気に置くと酸化が進みますが、現在展示してあるものはボロボロになつていて非常にショックを受けています。珪化木は能登の地質や自然環境を実証できるもので、非常に高い価値があり、何とか守っていきたくと考えています。



文化財は教育の大切な題材。  
たじたかかずゆき  
**田下一幸**教育長（鶴川）



ムカシトンボの幼虫  
約1億5000年前の姿をそのまま残す生きた化石。普通のトンボの幼虫と比べ体毛がない。幼虫の期間は7から8年。

動物については旧柳田村時代に、世界に2種しか確認されていない生きた化石「ムカシトンボ」を指定しています。わたしが30年以上調査した結果、鉢伏山から流れる町野川や山田川上流などで幼虫の存在が確認でき

ました。ムカシトンボそのものも貴重ですが、ムカシトンボが生息できる環境が、この地域に残っているということに価値があると思つています。  
**山田** 能登の自然を守ることが文化財を守ることにつながるんですね。ムカシトンボは、能登町にすばらしい自然が残っているという象徴だとわたしも思っています。  
**谷口** ほかに能登町で確認している絶滅危惧種は「ホクリクサンショウウオ」や「モリアオガエル」があります。まだまだ未開拓なものも町内にはたくさんあるのではと考えています。  
**田下** 最近では教育の中でも昔の良さを知って自分のものにしていくという「温故知新」が叫ばれています。その中でこの文化財が古きをたずねる題材の一つになるのではないかと思っていますが、文化財の保存のために

は努力とお金がかかるという問題があります。自分で守る自助、地域で守る共助、そして公が守る公助があつて文化財は守られていくのだと思います。谷口委員の話の中でもいろいろな問題が指摘されました。財政的には厳しいですが、できる範囲で協力していきたくと考えています。

## 地域に残された伝統を大切にしたい。



能登町文化財保護審議会委員  
かわいげんいち  
**河合元一**さん（鶴川）

**山田** 能登町の文化財を総合的に見ると、真脇遺跡は4000年にわたる長期定住遺跡ということで全国から注目されている遺跡です。仏像においては国指定が3点ありますが、国指定、県指定になっていなくても、町内にはまだまだ古い仏像がたくさんあります。時長の願成寺所

に価値があるものです。アマメハギ、あえのこと、石仏山など民間信仰や習俗に関するものが数多く残されていることも特徴です。また、祭りが多く県指定になつている点も特筆されます。特に「宇出津のキリコ祭り」は勇壮、盛大であり、この地域のキリコ祭りの代表として指定されているということです。



木造薬師如来坐像（願成寺・時長）  
平安末期の作。台座は藤原期特有の様式で、蓮弁17葉を現存する。光背は数少ない古式の板光背を残している。町指定彫刻。